

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ8月-

～自然観察と夏休みの工作を楽しもう～

8月9日(日)は、あいにくの小雨模様でしたが、楽しくメニューをこなすことができました。自然観察と草木川でのイワナつかみ取りに始まり、ソーメン流しのトイを利用したの



＜イワナの串焼き＞

「オモチャ流し」は、子供たちの歓声につつまれていました。イワナはすぐにさばいて、2時間程かけて焼き上げました。昼食後は、インストラクターの指導のもとに、本格的な工作づくりに挑戦しました。夏休みのよい思い出となれば幸いです。



＜オモチャ流し＞

～特別イベントも盛況です～

今年度は、月一回の通常イベントの他に、「藍染め」や「一閑張り」・「パッチワーク作り」などの特別イベントも予定しております。

7月4日・12日の「藍染め」教室に引き続いて、8月29日も「藍染め」が行われました。



＜草木川で洗う＞

参加された方々は、布を熱湯につけたり、「草木川」まで降りて流れにさらしたりと、ひたすら染め物に熱中しておりました。リピーターの方も多く慣れた様子で作品を完成させました。昼食は、専門店にやや近づきつつある??焼きたてのピザを食べました。。

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の友大さんのコーナーです

“ウグイス幼鳥”

遅くなりましたが“ウグイスの幼鳥です”。

笹がびく・びくと動きます。ちっちゃな鳥がつかまっています。喉から腹の黄色味をした羽毛、オリーブ色の羽、頭上は産毛で覆われています。ウグイスの幼鳥です。

巣から出るのが早かったのかもしれませんが。近付くとこちらを見据えています。



10分ほど離れている間に親がきたのか、笹も揺れなくなりました。2日後、ジツ・ジツという地鳴きをしながら飛び交う数匹のウグイスがいました。(友大)

ミツケ! こもれびの森

こもれびの森でみつけたよ

鼻がへし曲がる…

先日、朝に階段を下りて行ったら凄い臭いでむせてしまった。

すぐさま、3年前にこもれびの森の大樹の道で出会ったキノコが思い浮かんだ。やはり臭いの犯人は昨日採ったヒメスッポンタケだった。昨晚、調べようとして玄関に置いていたのが成長して臭気を放っていた。それにしても採ったのはギンナン大の幼菌だ。それをナイフで真っ二つに割って置いていたものが、一晩で見事な成菌になっていたのにはビックリした。それもきれいに二つに分かれたまま成菌になっていたからキノコの生命力に脱帽してしまった。

臭気のはキノコ(グレバ)から放つ臭いで、悪臭で虫たちを呼び寄せて胞子を運んでもらうための臭いだ。

一度嗅げば忘れられない強烈な悪臭であった。(は)

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー



①ナイフで二つに割った幼菌



②翌日、分かれた状態で成菌になった。上の幼菌も翌日成菌になった。>



③「大樹の道のヒメスッポンタケ」>

まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

～アメリカを侵略した草～・・・「クズ」(kudzu)・・・

クズは「秋の七草」のひとつで、万葉集で歌われ(21首)、俳句や絵画でもよく取り上げられている身近な植物です。葉は家畜の餌に、根からはくす粉・生薬(葛根)が作られ、「ツル」は編んでカゴに、繊維は布として利用されてきました。日本では古い時代から、大変有用な植物のひとつとされています。

しかし、アメリカでは侵略的外来種であり、「世界の侵略的外来種ワースト100」に選定され、最悪の雑草ということになっています。クズが日本からアメリカへ持ち込まれたのは、明治初期(1876年)ですが、観賞用・飼料用・緑化用などの用途で、政府の奨励もあって普及していきました。しかし、20世紀前半になると爆発的に拡散し、とくにアメリカ南東部の農業(綿花栽培など)に壊滅的な打撃を与えるまでになってしまいました。「南を食べたツル」とも呼ばれています。現在も駆除の対象であり、政府レベルでの駆除方法の研究が進められています。日本ではそれなりに愛されてきた雑草ですが、アメリカ人にとっては日本から侵入した「生物兵器」に見えるのかもしれませんが・・・(千葉)



「クズの花」
＜マメ科つる性多年草＞

雑記

9月11日未明、心と目が覚めるとゴォーという雨音に掻き消されながら、微かに“大雨特別警報発令”のアナウンスが聞こえてきました。地球温暖化が指摘され未曾有の大雨や山崩れ、河川の氾濫などが発生し、活発な地殻活動による地震や火山の噴火もこのところ多発しています。災害発生都度、防潮堤や河川の堤防の強化などが行われますが、天災は30年、50年、100年、1000年と、人々が忘れた頃にやってきて、軽々と人工物を突き破り、未曾有の大災害を発生しています。これから起きるであろう災害に対して、防災構造物などを過信せず、一人一人が先入観や思い込みを無くし、災害のメカニズムや防災の知識を深め、そしてできるだけ情報をあつめ、自分の責任のもとに冷静に判断し、行動することが求められていると考えています。